

鳥居坂の生きた歴史

# 東洋英和女学院



2



3



1



4



5



6



7



9



10

- 1 通りに面したファサードはモダニズムと古典が融合している
- 2 門は教会のように聖なる場所のうつくしい結界
- 3 落成時の小冊子
- 4 点在するチャペル
- 5 復元された礼拝堂
- 6 明治44年卒業記念の銘がある
- 7 学院史料展示コーナー
- 8 シュヴァイツァーからの感謝状
- 9 教室は現代だ
- 10 通りに面した事務室からは並木と古いレンガ塀が望める

麻布を知るほどの人は、六本木の中心を一步横に入れば、これが日本有数の繁華街のすぐ裏にあたるとはとても信じられない、ひとすじの静寂な道があることを知っているだろう。それは鳥居坂まで真直ぐつづき麻布十番に至る、明治風のレンガ塀や石垣が残る平らで人通りの少ない道だ。その中ほどに落ち着いたたたずまいを見せているのが120年からの歴史を誇る東洋英和女学院だ。行き交う人で中を知る人は、すくない。だがそこは、明治以来の建学精神とともに建築にも長い歴史が継承されている、東京にも珍しいエキゾチズムあふれる空間だ。

1933年名建築家ヴォーリスによって建てられた当時のうつくしきは、近年改築がなされた現在も随所に見ることができる。大講堂には重厚なパイプオルガンがあり、教会建築に見られる高窓からの光が空間を聖なるものとしており、教室の間に散在する小さなチャペルは、祈るものにステンドグラスの光でキリストの物語を冥想させる。当時の調度で飾られた落ち着いた院長室も復元保存されている。校歌は北原白秋、山田耕筰の異国趣味愛好家の作品であるものいかにもぴったりにだ。これらに関しては史料展示コーナーが一般に開放されている。

カナダのメソジスト教会から派遣された宣教師ミス・カートメルによって明治17年に設立されて以来の、敬神と奉仕の理念は現在も継承され、この学校が女子教育の名門と評価されるおおきな理由となっている。女子が教育を受けることに困難があった以前とは時代は様変わりしたが、キリスト教という人類を代表する宗教のひとつにのっとった教育は、これからの世界に生きる生徒たちにとって、大きな普遍的な価値を人生の指針とすることを可能にするだろう。

女学院ではあるが、大学院や市民向けの公開講座は男性も受け入れている。生涯教育としても開かれた場となっているので、興味のある向きは問い合わせられたい。

# 麻布びと

## フジノさんからの贈り物

昨秋のアークヒルズまつりでのこと。広場の櫓と国際色豊かな盆踊りの輪を敷席からながめていた時、あるおばあちゃんと隣り合わせた。粋な浴衣姿でしゃんと座り、きりっと頭に結ったかわいいお団子。手に持つ巾着は手作りで「余分を持っていたら差し上げられたのに」と残念そう。ていねいな縫い目に驚いていると、いたずらっぽく「わたし90過ぎてるのよ」と笑う元気なお姿にひとめ惚れしてしまった。また会いたいと思っていたら有難いことにその願いは叶った。日吉フジノさん 96歳。良妻賢母の誉れ高い明治の女である。



昭和15年日本髪姿の美しいフジノさん。29歳

麻布谷町は東と西で明暗を分け、東側現六本木一丁目側は戦災にも焼けず長屋は残った。戦後夫の正夫さんは築地の仕事に復帰。またフジノさんのお裁縫による内助の功で夫を支えながら家政を守る毎日が始まる。18年に生まれた次女と22年には三女の誕生で家族6人の生活となった。今回インタビューに付き添って下さったのは末っ子の禮子さん。

お父さんが築地の仕事だったから私は食べるものに全然不自由しなかった。すごいもの食べてたのよ。人の食べられないようなものを食べさせてもらっていたからこんな96歳にもなって元気。だから毎日仏様に「どうもありがとうね」って挨拶してんの。「正夫さーん」って(笑)。私ね、一度もまだ病院に行ったことないのよ。有難いですよねえ。そうそう、お魚は体にいいのよ。

やがて古い長屋の町に大きな転機が訪れる。今こそ「都市再開発」という言葉は一般的だが、アークヒルズ建設計画は日本における民間初の大規模な再開発事業で、プロジェクトが始まったのが1967年。2006年に20周年を迎えたアークヒルズだが、高度経済成長のまったなかで開発は困難を極め完成までに20年近い年月を要した。

お話が来た時はお父さんが元気だったから全部任せてたわね。でもお父さんは結局ここができる前に71歳で亡くなってね。残念だったわねえ。お部屋は日当たりも良くて気持ちいいですよ。9時に起きて朝はパンとレモンティー。みんなうちに来るとね、すぐ「レモンティー飲みたい」って言うの。私のレモンティーおいしいのよ。レモンちょっと厚く切って真ん中だけ少し

押すの。そういう加減がいいみたい。それから毎日何かこさえてる。銀座のデパートに行ったらね。おじさんが藁で草履を編んでたの。これは面白いと思ってそれから3日通っておじさんのやることじっーと見て覚えちゃった。東京で藁は手に入らないから布で編んじゃえって。みんなにあげちゃう。「あらうれしい！」って言ってもらえるのがいちばんの楽しみね。あの人すごく喜んでくれたわってこっちが嬉しくなっちゃうの。フフ…はい、これどうぞ。

大感激の編集部員にフジノさんはこの笑顔。この巾着は名付けて「長寿袋」と呼ぶそう。あやかりたい

差し出されたプレゼントの中身は布草履と鼻緒と共布で作られた巾着。我々のために作って待っていて下さったのかと一同大感激だ。驚いたことに草履作りを覚えたのがなんと3年前。禮子さんのお話では作る度に改良を重ね、毎回何かしらの工夫をされているとか。

いろいろ研究するのが大好きなの。考えたり工夫したり。そうじゃないとほけちゃうもの(笑)。…そう、笑うのもいいのよ。一日笑ってるから。あと人が喜ぶことを何でもすること。人の嫌がることは絶対しちゃういけない。今日はね、こうやって知らない方とお会いしてお話ができるとほんとに嬉しいわ。「袖摺り合うも多少の縁」という言葉があるけどこんなにお話できたんだから、多少どころじゃない、きっと何かのご縁でしょうからね。私も95歳だか6歳だか…(禮子さん)「6歳ですよ」…あっ、6歳ね。ハハハ、まったく歳はとったけどねえ。ああ、楽しかった(笑)。

90歳を超えた方とお話できる機会というのはそうあるものではない。ジュニア編集部員・大村 響ちゃんは8歳。フジノさんのひ孫みたいなものだ。響ちゃんはフジノさんの手作り草履と巾着に感動し、お手玉の腕前に尊敬のまなざしを向けていた。帰り道、頬を紅潮させながら興奮気味なのがなんとも可愛らしい。よかったね。あんなに楽しそうに素敵にいられるのなら年を重ねるのも悪くない。それぞれそれがなにか温かいものを胸に家路についた。この気持ちもフジノさんからの大切な贈り物だ。90歳を過ぎて草履作りを始め、「これからも何か出会いがあったらきっと新しいこと始めるんでしょねえ」と娘の禮子さんとおしゃるとおり、フジノさんのチャレンジはきっとまだまだ続くだろう。好奇心を持って楽しく生きる才能。これが神様からフジノさんへの贈り物かもしれない。

生まれは新潟県のうんと山の方。松之山温泉の近くで雪深いところなんです。旧姓が藤巻でフ・ジ・マ・キ・フ・ジ・ノ。からかわれてねえ。学校から帰って「変な名前でないや！」なんて文句言ったもんですよ。おじいちゃんの次郎左衛門は村長さんも務めた人でね、母に「おじいちゃんが日本一の『富士山』ときれいな『フジ』の花から付けたいい名前なんだから・・・」と言われて「いやだっ！」て(笑)。東京に来たのは16歳くらい。みんな奉公に出されたの。巣鴨のお屋敷で儀見習い。外に出ないですずっとお屋敷の中だったから今巣鴨に行ってもどこらへんだったのかわからないわねえ。22歳の時、兄が奉公していた渋谷の酒屋さんの女将さんに「フジちゃんもいい年頃だし、とってまじめないい人があるけど結婚したら？」と勧められてお父さんと結婚したの。今の神谷町の辺りのお魚屋さんで働いてる人でね、だから新居は麻布谷町。ここだったのよ。お父さんはね、ほんとにまじめ一方の人だった。

首都高の谷町ジャンクション。旧町名「麻布谷町」に由来している。名前の通り谷間の町で六本木通りが一番低く、通りを挟み東側の現六本木一丁目と西側の現六本木二丁目の辺りが麻布谷町。1つ年上の正夫さんと結婚したフジノさん。麻布谷町での新婚生活が始まる。当時は六本木通りの左右に路地が何本もあり、そこに長屋がたくさん連なっているような町であった。

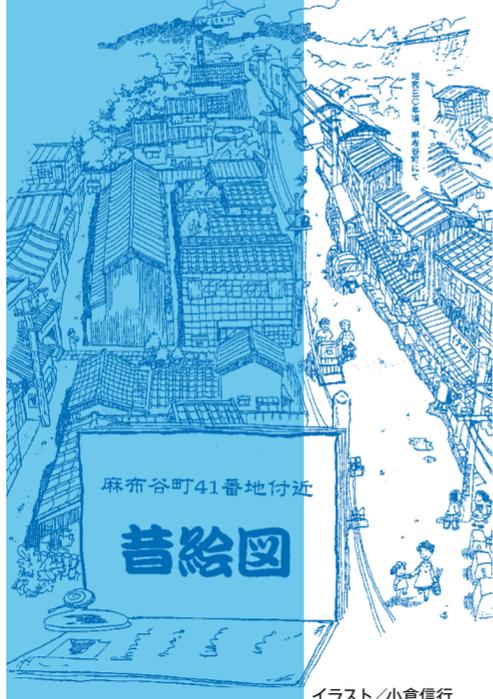
ここら辺はみんな二階家の木造の家ばかりだった。お父さんは築地の河岸の間屋の仕事に変わって、私はもっぱら家でお裁縫。たっくさん縫いましたよ。お振袖なんかどれだけ縫ったか。何か手を動かしているのが大好きなのね。大勢集まって運針の早縫いとか針目を先生が見てくれるお針の大会に出たり。私はすごい早い。お裁縫してるの、だーい好き。おじいさんに「女は外で労働できないのだから座ってできることを」と言われて徹底的に習ったから。昔は女の人が外へ出て働くなんてことなかったからね。笑われたもの。新婚って言っても忙しくて働いているばかりだった。昭和10年に長女、15年に長男が生まれたの。戦争が始まって段々様子が激しくなってきた、学校から田舎のある人は疎開しなさいって、もう命令みたいな感じなのよ。だから長女は静岡県沼津のお父さんの実家へ。私は長男を連れて自分の実家。うちは農家じゃないから友達のうちへ行ってお米を分けてもらって、代わりに田植えを手伝ったりして。したことないからほんとに苦労しましたよ。少しして長女を迎えに行ったの。海でね、あの子がぼろぼろのもんぺをはいて友達と遊んでいて、あの時は可哀想でね…泣けたねえ。疎開先で終戦を迎えて、兵隊に行ったお父さんは内地にいたからよかったのよ。ある日突然リュックしょって迎えに来たの。びっくりしたねえ。帰ってきたら空襲にも焼けないで家はちゃんと残っていたのよ。ここはほら、アメリカ大使館があったから。戦争中は水道とかみんな止められたりしたけどここは大使館と栓が一緒で止まらなかったのよ。だからみなさんにお水なんかたくさん分けてあげたの。だけど家のものは何にもなくなっていて罹災者っていうの？焼け出された人が家に7組もいた…。しょうがないから、私はしばらく押入れに寝たりして…アハ、大家さんが押入れなんだから(笑)。そしたらね、自然に出て行ってくれたの。焼け出された人は家がなくなっちゃったんだもの。そうやって人の家に入って来たのは仕方ないのよねえ。



港区六本木在住 日吉フジノさん(96) 「人に喜んでもらうのがいちばんの幸せなの」



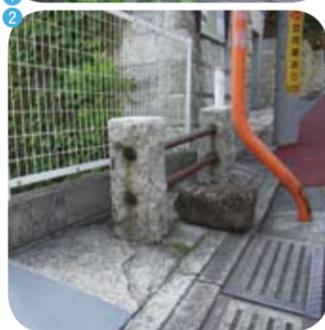
フジノさんにお手玉を教わるジュニア編集部員・響ちゃん。お手玉もフジノさんのお手製



イラスト/小倉信行



なんともおしゃれな色合いの草履。実に履きやすい



## 懐かしい景色に癒されて 昔の麻布宮村町界隈を歩く。



元麻布二丁目に宮村児童公園がある。一見すると子供の遊具が並ぶ普通の公園だが、外国人の親子がじつに多い。六本木ヒルズを望むのどかな公園はインターナショナルなムードでいっぱい。最も日本的な景色の中に、多国籍な言葉が飛び交うのは麻布らしいとても微笑ましい風景である。宮村公園から本光寺の脇を通る。細い路地を歩いていると、とても懐かしい感じのする家並みが続く。路地裏の風情がここにはあるのだ。

路地から大隈坂に出る。坂を下ると、左手に酒屋の看板。『さかや栗原』と表示されている。のぞいてみると、「元麻布」と書かれた日本酒



が・・・。なんとここ元麻布をネーミングにしたプライベートブランドだそうだ。ぜひ麻布散歩の際には、おみやげとしていかがだろう。

大隈坂を下りきったあたりには、元麻布三丁目緑地（宮村池）と名づけられた緑地がある。マンションに囲まれたわずか30坪ほどの敷地だが、立派なビオトープ①（生き物の生活空間）だ。日本の野草が植えてあり、池には自然のメダカが放してあるそうだ。なんだか心が和む贅沢な空間である。宮村池のすぐ近くに、橋の欄干②を見つけた。下には小川が流れ、麻布山の豊かな水系を想像させる。ちょうど坂を下りきった交差点のところにも人一人が通れるかどうかの細い路地③がある。近隣の人たちはよく使う道だそうだが、なんだか面白い空間ではないか。ここもきっと昔は川が流れていたのか、とまた想像を膨らませる。



さて、最後は善福寺まで歩いて、柳の井戸を見物しよう。これは自然に地下から湧き出した清水だそうで、弘法大師が鹿島の神に祈願し、手に持っていた錫杖を地面に突き立てたところ、たちまち噴き出したそうだ。麻布に伝わる不思議な伝説である。

(取材・写真・文/尾崎恭彦)

「小さな頃から実物に接してください。展示会に行って感性を養ってください。学校が子供を連れてこられるような芸術の授業があるといいですね。」



世の中にはいろいろな仕事があります  
**学芸員**

子どもに生きていく力を

親子で  
読んでみよう

**KIDS!**  
**ハローワーク**

芸術作品に近づける人

港区麻布地区内の六本木一丁目に、泉屋博物館分館という美術館があります。分館館長で学芸員の川口直宜さんに、ジュニア編集部員・石山茜ちゃん（13歳）とうかがって、まとめてみました。茜ちゃんは、学芸員とは「頭のいい人が行く学校のこど？」と思っていました。

### どんな仕事をするの？

学芸員とは博物館で働く専門的職員のことです。実物などの資料を集め、保管して、展示します。「博物館法」という法律に決まりごとがあります。博物館には、美術館、科学館、動物園、植物園、水族館なども含まれます。

学芸員の大事な仕事は展示会を作ることです。

それには二つのやり方があります。一つは保管している作品を展示すること、もう一つは他の人から借りた作品を展示することです。

展示会では、主題（テーマ）を決めて作品を選びます。そ



ミュージアムグッズの例



ここは、江戸時代に生まれた住友吉左衛門さんが集めた、日本と中国の作品を保管します。これらの作品は、銅器や陶磁器、お茶の道具、能の衣装、絵などです。



していろいろなことに気をつけます。大事な作品を傷めないように、展示ケースの中の空気温度や湿度を一定にします。作品の色あせを防ぐために、蛍光灯は紫外線の出ない物を使います。作品がよく見えるように、展示ケースの亚克力やガラス板の透明度を高くします。展示する作品の数や並べ方、それぞれの説明札（キャプション）も考えます。

展示では、過去の人々が作った作品のすばらしさを、現在や未来の人に伝えるようにしています。優れた技を持つ作家が、魂をこめて作った作品は、どの時代の人をも感動させます。美しい絵を見るだけで、心が清められたり救われたりします。それは、価値のある作品が、色や線を通して与えてくれるものです。学芸員の良心として、芸術の魅力を多くの人に知ってもらいたいと思います。

学芸員の仕事の良さは、手が触れる距離で作品を見られることです。初めて目にしたすばらしい作品の、心に飛び込んでくるような感動は忘

れられません。反対に、この仕事の難しさは、いろいろなお客さんの気持ちを考えないといけないことです。展示のときに、たくさんの作品を見られるように、作品をつめて並べれば、見づらいいと言われます。並べる作品を少なくすれば、もっと展示してほしいと言われます。

### どうしたらなるの？

学芸員になるには資格が必要です。この資格は、大学で単位を取るなどの他、文部科学省の試験に合格すれば、持つことができます。資格を取った後は、学芸員として働ける博物館を探します。文部科学省のホームページに、詳しい話がのっています。

展示作品に、ジュニア編集部員・茜ちゃんの気に入る絵がありました。今回の館長のお話や作品との出会いから、13歳として感じる心と力が生れたようです。

(取材/石山恒子、石山 茜、大村公美子、伊藤志織 文/伊藤志織)



ハイチ共和国

## ハイチ共和国

面積：27,750 平方キロメートル (四国と九州の中間程度の面積)

人口：915 万人 (2005 年 ECLAC)

首都：ポルトープランス

民族：アフリカ系 90%、混血 10%

言語：フランス語、クレオール語

宗教：カトリック、ブドゥー、プロテスタント

政体：立憲共和制

元首：ルネ・ガルシア・ブレヴァル大統領 (2006 年 5 月就任)

議会：2 院制

外務省ウェブページ

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/haiti/data.html> より

取材協力/ハイチ大使館

## 麻布の "世界" から



## HAITI

## カリブ海、イスパニョーラ島の国ハイチ

ハイチ大使館は、いくつかの大使館が同居することで知られる西麻布交差点近くのビルの 9 階にある。入ってすぐに目にとびこんできたのは、ルソーを思い出させるような豊かな緑と花や鳥などを色鮮やかに描いた数々の絵、そして木彫りやスチール細工の工芸品である。ハイチ・アートに見入っていると、すぐに明るい笑顔でジャン クロード ボード代理大使が迎えてくださり、奥の大使の執務室に通していただいた。

ハイチ共和国は、1492 年にコロンブスが発見した中央アメリカのイスパニョーラ島を東の隣国ドミニカ共和国と 2 分する。スペインやフランスの支配を長く受けたが、1804 年 1 月 1 日に世界初の黒人の共和国として独立した。このため 1 月は独立記念のお祭りが盛大に行われるという。ローマカトリックが国教なので、12 月にクリスマスをお祝いすることに加え、1 月以降も「灰の水曜日」と呼ばれる 2 月末の水曜日までカーニバルが行われる。もちろん人々はその間も働いているのだが、お祭り気分は年末年始から 2 月まで続くらしい。

ご存知の方も多いと思うが、農業が中心産業であるハイチは、コーヒーやカカオ豆の輸出国として有名である。高い山で採ればそれだけ質も高いそうで、山地の多いハイチからはトップクオリティのコーヒー豆が世界に送られている。マンゴーも重要な輸出品のひとつだ。杏ほどの小粒のものから、マンゴー・フランシスと呼ばれる高級品までなんと約 30 種類もの品種があると聞き、マンゴーといえばよく果物屋さんでみかけるあの大きさ、あの色だけと思っていたのは間違いと知った。大使とお話するまですっかり頭から抜けていたが、カリブと言えばラム酒も忘れてはならない。実は「ハイチで代表的な輸出品は?」と伺って、最初に出た大使のお返事はコーヒーでもマンゴーでもなく、ラム酒だった。「バルバンクール (Barbancout)」が代表的な銘柄で、ラベルにある星の数でその質が現されている。一ツ星は主に料理等に用いられ、三ツ星は最も一般的に楽しまれている。コーラ、ジュース、他のリカー、フルーツ等、何を混ぜても飲んでもいけるらしい。そしてコニャックのような深



い味わいの五ツ星は最高級品である。

大使は大の日本通で、過去にも日本に駐在経験があり、今回のポストで 3 回目である。趣味の写真やスキューバダイビングの他に、飛行機の操縦もこなす。実はカリブの島々を移動するには飛行機が便利なので、小さい時から操縦を習っていたのだという。アメリカや日本での操縦ライセンスもお持ちだ。港区内の様々な場所に住まわれたそうだが、現在はお台場在住。「私はアイランダー (島人) なので、海が体に合うんです。」と、とても気に入っておられる様子だ。カリブの島の大使は、やはり海の側が一番落ち着かれるようだ。

最後に大使の執務室にも数多く飾られていたハイチの絵画についても一度触れたい。近いうちに 100 点ほどの絵画展を開催したいので、協力者を探していると言う。カラフルな色彩が南国の雰囲気たっぷりで、ルソーのどこか悲しげな印象とは少し異なり、ハイチ・アートはいきいきとして、喜びにあふれているようだ。もし、私の部屋にハイチの美しい絵画と極上のラム酒で作ったハイチアン・ラム・ポンチがあったら、まさにこの世の楽園だろう。是非絵画展が港区内で開催され、ハイチ・アートのすばらしさを少しでも多くの人々に知ってもらう機会が訪れることを祈っている。



4

(取材・文/加藤智恵、森 明)

1



2



3

1 日本通のジャン クロード ボード代理大使。国旗には、ヤシの木に「自由の帽子」と呼ばれる緑なし帽がのり、「団結は力を成す」という文字が記されている。

2 スチールを細工した装飾品と木彫りの人形。代表的なハイチの工芸品だ。木彫りの材料になる良質のマホガニーは伐採のため今は貴重品。下は鮮やかな女性用の民族衣装。

3 ハイチの豊かな緑を描いた絵画。一枚一枚の葉先まで、とても細かく表現されている。

4 最高級品のラム酒。外箱にもカラフルなハイチ・アートが使われている。

# Azabu-nista

麻布で働く外国人レポート



Notting Hill Cakes pâtissier  
Mark Peterson

## 繊細で品質に敏感な麻布人に、本場英国の焼き菓子を。



5人に1人が外国人という麻布地域。港区の外国人登録者数2万1200人超のうち半数近くが麻布地域に暮らしている。金融や語学教育などさまざまな業界で、麻布を基点として活躍する人も多い。

西麻布にある焼き菓子店「ノッティングヒル・ケーキ」を経営するのは、イギリス人パティシエのマーク・ピーターソンさん42歳。麻布で働く外国人の一人だ。

1990年にロンドンで創業。マークさんが作る新鮮素材を使ったヘルシーなマフィン、元皇太子妃や有名サッカー選手、大物アーティストなどの支持を得て、いわゆるセレブ御用達の逸品として人気となった。

イギリスで成功を取めたパティシエは、「繊細で品質に敏感」な日本人の舌をうならせるために、2006年10月、麻布へ上陸した。「イギリスでは受けが悪いけれど、日本人はなぜか好む」といい、モンブランのカップケーキを日本限定で発売している。日本の嗜好を素直に受け止め、品揃えも新たに出発してから2年半、マークさんのお菓子は日本でも話題となっている。カフェス

ペースを持つ西麻布店には、「文化レベルが高い住宅街に住み、礼儀正しくコミュニティーフィーリング（共同体意識）にあふれた」麻布のママさんが子供を連れて歓談に訪れる。週末ともなると、郊外から足を運ぶお客様も多いとか。

麻布に日本第一号店を出店以来、目黒の駅ビルや銀座の老舗デパートなど各地にビジネスを展開していくマークさんであるが、「文化、立地ともに東京の中心に位置する便利な西麻布店は、今後もずっと続けていく」という。

麻布—ここは万華鏡の世界。大使館や外資系企業が集まる国際色豊かな街、深夜営業の店が多い不夜城、観光地となった商業ビルの裏には閑静な住宅街が広がる。見る人によって視界は違ってくる。

本場英国のこだわりの焼き菓子を世界へ発進するオーナー・パティシエにとって、麻布はターミナルの役割を果たすのだろうか。

(取材・文／岡野真由美、山下良蔵)

## どうしてよいか分からない……

以前は、洗面室で椅子に座りながらKちゃんの歯磨きをして上げていたのだけれど、それもこの頃難しくなって来ちゃった。

今は、朝晩スティックにスポンジがついたものをぬらしてしぼり、お口の中を清潔にするために拭いてあげているの。その後、唇にリップ・クリームを塗ってあげるのだけれど、Kちゃん、気分がのると可愛く唇を大きく開けてくれるので嬉しくなっちゃうのよ。きっとKちゃんも生きている～って思っているのかな……。

うちではね、Kちゃんのお世話は、とにかく出来るだけ元気な時と同じ、今まで通りの生活を続けた方が良く考えたの。今は無理だけど、88歳まではひとりでひよこ、ひよこ外出していたのよ。危ないからよせと云う意見もあったの。でも、自分で好きな所に出かけられるって大切だし、ちゃんと連絡先や電話番号や血液型等を入れたペンダントをさせて万一のことを考えながらやってきた。

昨年の入院前まで嚥下困難食も家族一緒にの食卓

で食べるとか、お出かけもいいかなって思って、デイケアに行けるようにいろいろ工夫して頑張ってきた。今も、両脇を二人で抱えても、おしもはトイレでおむつ交換してあげたらKちゃんも気持ち良いだろうし、また、ベットに寝かしきりにしないように工夫しているの。

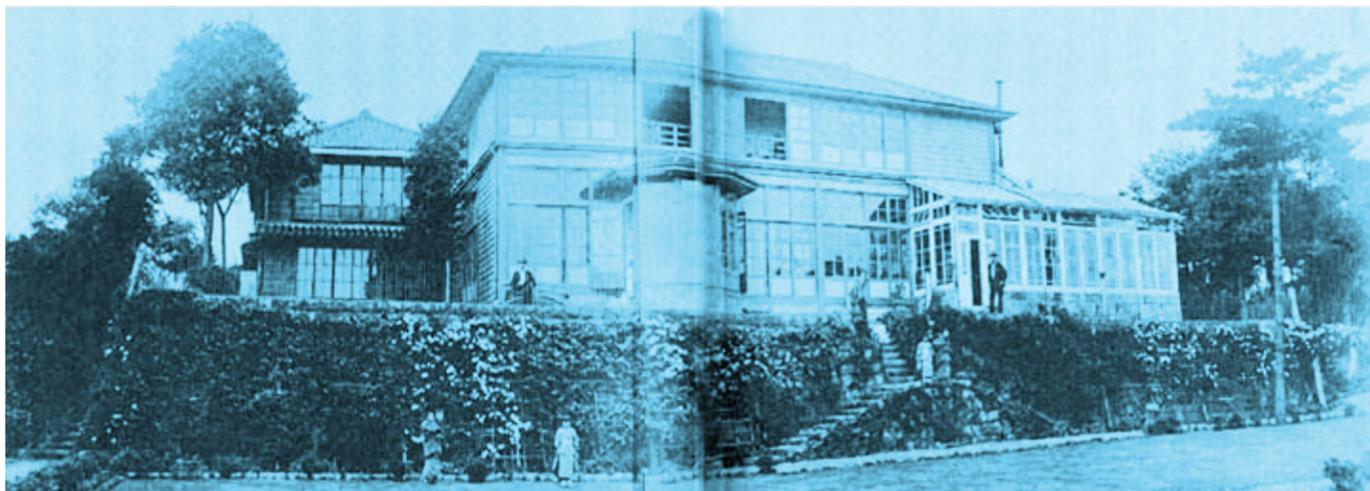
おうちで今まで通りの生活を維持するには、どうしたらいいのって思っていたら、人って、考えること以外は日常生活の全部を筋肉でしているって気が付いたのよ。例えば、物を見るときは目の筋肉を動かしているし、歩くときは足の筋肉を動かしているし、洋服を着るときは手や足の筋肉を上手に使っているし、食事をするときには舌や口の周りの筋肉を動かしてなど、普通の生活をするために筋肉が大切な役割をしている。とにかく、人間は脳からの指令を筋肉で実現していることが分かったわ。大切なのは筋肉トレーニングかなって……ところが残念なのだけれど、年を取って来ると筋肉って衰えてくるの。だから、Kちゃんのケアで大切

なのは、どうしたら今持っている筋肉の力を落とさないようにできるかなの。自力を大事に、一生懸命あの手この手で工夫して、歩かせたり、話すように仕向けたり、動かし続けているの。前は理学療法士P.Tの先生にお願いして筋肉トレーニングだけだったけど、今は、作業療法士O.Tと言語聴覚士S.Tの先生方にもお願いしているわ。

よく介護の話でQ.O.L (QUALITY OF LIFE 命の質とか生活の質って言うのかな?)、Q.O.Lって聞くけれど、それって何だろうって思っている。お医者さん、ケアマネージャーさん等から、身体的健康状態や普通の生活の維持など色々な見方があると教えて頂くけど、その考え方を総合したQ.O.Lがおうちの介護だと思ったの。結局、おうちの介護には、本人の筋力の維持と少しのお金の力が必要で、近頃、私たちが段々年を取るので「きんりょく」を鍛え、貯めておかなきゃって思っている。

(M)

# 麻布の軌跡 東京麻布のグラバー邸



麻布新邸。左奥は伊藤博文より贈られた和式2階家（長崎歴史文化博物館蔵）

明治維新・陰の立役者であるトーマス・ブレイク・グラバーをご存知ですか？そうあの長崎のグラバー邸（オペラ マダムバタフライの舞台）のグラバーは、二十一歳という若さで薩摩・長州の倒幕勢力と組み貿易商として富を得、その後伊藤博文・井上馨らの英国密航留学を支援したことなどから、井上馨外務卿の発案による外国貴賓の接待場＝鹿鳴館の外人名誉書記にも抜擢。さらに日本でのビール産業に目をつけ、キリンビールの礎を築いた人物でもあることはあまり知られていない。江戸～明治へ、日本激動の時代を生きたグラバーは、人生最後の三年間を東京麻布で過ごしその生涯を終えるが、その後この邸は松平慶民子爵に買い取られ、戦後は三洋商会のクラブハウスとして使用。この邸宅が実在した明治～昭和に渡る約六十有余年の舞台では、伝えられずに掻き消えた数々ドラマが潜んでいた。

東京・麻布富士見町のグラバー邸の庭で。長男倉場富三郎撮影、明治32～33年頃か。右：富三郎のワカ夫人、左：ジョン・G・ウォルシュ初代アメリカ長崎領事の孫、山口たえ。（東京都・江口美枝子さん所蔵）



東京・麻布富士見町のグラバー邸にて。左より長女ハナ、トーマス・グラバー、ハナの長男トーマス、長男富三郎、同夫人ワカ。（長崎歴史文化博物館蔵）

## 伊藤博文寄贈の芝邸和式二階家を移築

「東西にのびる宅地一四〇〇坪を富三郎の名義で入手していた。地番は麻布町七八番地。その北側には、五番地の栗林。これをふくめた購入代金は約五万五〇〇〇円。早くも南側の崖すれすれの位置どりで、和洋折衷の二階建てを新築中であった。」（注1）

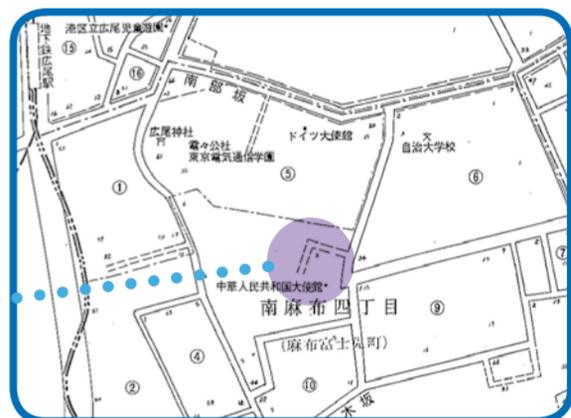
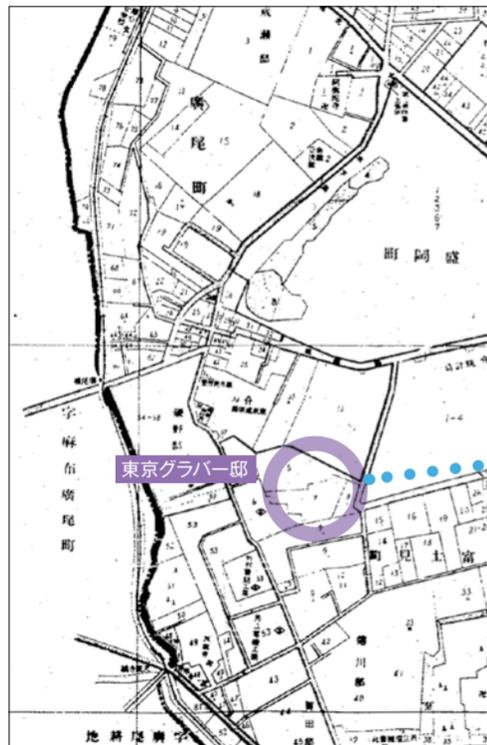
「伊藤から贈られた芝邸の和式二階家はそのまま移築、母屋の西側裏手につなげる。門を入ったところには円形の馬車まわりをしつらえ、庭には池を掘り、四季の花木を按配する。」（注2）（※文中の富三郎とは、グラバーの長男倉場富三郎。）

「いまや初代の総理大臣をつとめ、日本の最高権力者の座に昇りつめた伊藤博文が、贈ってくれた邸宅といわれる。」（注3）

「伊藤から贈られたこの芝の邸宅は、芝生の広い庭があり、家は総桧造りの百坪ほどの二階建てだった。」（注4）

一九一一年十二月十六日グラバー麻布邸にて死去。最も親しい友とされた伊藤博文はその前年朝鮮総督として在任中に殉職。

大正13年（麻布富士見町）地図



昭和51年（南麻布4丁目）地図  
現在は、高陵中学校の仮校舎が建っています。

## 松平永芳と東京グラバー邸

「私は、グラバーの生涯を深く研究したことはないが、今日では東京グラバー邸が、どこに在ったかを知る人もなく、両親も既に歿し、この私が世を去れば永久に忘れ去られるであろう事を思ひ、あへてこの一文を綴り、一つ史実として後の世に伝えたいと考えた次第である。」（注5）

「何とはなく長崎グラバー邸に似通ったところのあった東京グラバー邸こそ、私が呱呱の声をあげ、邸内を走り廻はつて成長し、ここへ復員して来るまでの三十年間、起居したわが家であつたからである。」（注6）

「この邸は、明治末期に先考が譲り受け、幸ひにして戦災を受けずに残った。しかし、主戦直後の昭和二十二年、財産税制施行の結果その納税対策として、やむなく貿易商社「三洋商会」に売却譲渡したのであるが、その後完全に撤去されて、現在では郵政省職員専用の大きなアパートが、二棟建てられてをり、昔日の面影一片だに遺つてゐない。」（注7）

最後の記載（注5・6・7）は、東京グラバー邸の辿り港区立郷土資料館を訪ねた際、偶然学芸員松本さんよりご提供いただいた。その2枚のコピー分には、『東京グラバー邸』60.8.1 ご参考』との判が押されており、松平永芳氏の手記によるものを、後世に伝えたいとご本人が館にお持ちいただいたものを学芸員松本さんが受付たとのこと。それは『東京グラバー邸』の最後の歴史を記すものであった。



トーマス・グラバーの死（長崎歴史文化博物館蔵）

（注1・2）内藤初穂著「明治建国の洋商 トーマス・B・グラバー始末」p.521 - 522（株式会社アテネ書房）  
（注3・4）多田茂治著「グラバー家の最後 - 日英のはざままで」p.118 - 119（葦書房有限公司）

# Living in AZABU

## Spend The Hot Summer

あ〜夏がやって来る。  
今年“暑い”じゃなく、“熱い”夏をすごそうと思う。

自然色の中肉のシーティングで作ったショートカフタンとか(!)  
ビニールのテープで編んだバスケット、  
好きなビーズを左右対称に1m位の長さ(or some more longer)  
ストレートにつないだネックレス、茶色のストライプのサンダル。

クミンをきかせた Chili Beans、  
“ひえ〜、熱っ!”等といいながらナチュラルなソーダ水を、こくこくと飲もう!

御本も井上民二先生の“生命の宝庫・熱帯雨林”を読みたい。是非。  
弟の自慢の蔵書だ。

南に引越していったあの方は、どんな夏をすごすのだろう?  
切ない。。。。  
サボテンの白いお花の下でホロホロ泣いちゃうかしら?  
早く又あの静かな笑顔に逢いたい♡

麻布はすてきなカフェが何軒もあるから、Open Airの熱い夏を楽しみに出かけよう。  
どうぞ元気な夏を!!



Summer '08

(イラストレーション・文/湊 早苗)



平成20年3月16日に星条旗通り・政策研究大学院大学にて

## 「六本木ふれあいまつり」が 開催されました。

「安全で安心できるまち六本木」のPRを  
目的として、星条旗通り一帯と政策研究大学  
院大学前庭で、地元商店会、竜土町会、六本  
木町会、麻布警察署、麻布消防署等関係機  
関の皆様と開催いたしました。

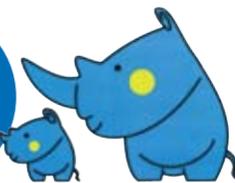
春の暖かい日差しのなか、星条旗通りでは  
六本木の老舗のショップや模擬店が並び大変  
なにぎわいでした。

政策研究大学院大学会場では、白パイの試  
乗・シートベルト車体験、消火器体験などの  
体験コーナーや、「きよこおねえさんとあそぼ  
う」やヘブンアーティストのパフォーマンス、  
地域の方々の発表  
など楽しい催しで  
子供たちの歓声があがっていました。



## あなたの声 聞かせてください。

麻布の情報を  
募集  
しています



「ザ・AZABU」では、港区麻布地域に暮らす方々に向け  
て、楽しく心が豊かになる情報をお伝えしていきます。  
より魅力的な紙面にするために、読者のみなさんのご意見・  
ご感想などを募集いたします。

- いま、最も関心のあること(港区麻布地域での出来事など)
- 今後、紙面で取り上げてほしい話題、ご意見、ご質問
- 麻布地域で風光明媚な場所(写真に撮りたくなる美しい景観)・・・など、どしどしお寄せください。

電話、ファックス、郵送で受け付けています。宛先は、紙  
面表紙(題字横)をご覧ください。



情報等をお寄せいただいた方には、記念品(旧町  
名記載のオリジナル手ぬぐい)を差し上げます。

お待ちしております。

# 麻布地区 総合支所だより

## 総合支所からの お知らせ

4月から毎週水曜日の午後7時まで  
転入、転居、転出などの各種手続き  
の窓口開設時間を延長しています。

### お取り扱いする主な手続き

転入・転居・転出の届出、印鑑登録の受付、自動  
交付機カードの交付申請の受付、戸籍届出の受領、  
住民票、戸籍の証明書、印鑑登録証明書、納課  
税証明書、外国人登録原票記載事項証明書の発  
行、住民税・国民健康保険料・介護保険料の支払い、  
母子手帳の交付、軽自動車の登録・廃車、子ども  
医療証の申請受付、児童手当の申請受付  
※他の市町村や関係機関に確認が必要な手続きな  
ど、一部お取り扱いできない業務もあります。  
詳しくは下記までお問い合わせください。

### お問い合わせ

麻布地区総合支所  
(窓口サービス係) 電話/03-5114-8821  
(保健福祉係) 電話/03-5114-8822

### みなとコール

(港区コールセンター) 電話/03-5472-3710

## 麻布消防署からの お知らせ

### 「危険物安全週間」

●期間：6月8日(日)～6月14日(土)  
●東京消防庁 危険物安全標語  
“不注意が 大きな事故に 危険物”  
(作者 藤沢 勝さん 文京区在勤)

●ガソリンをポリ容器に入れてはダメ!  
火災や爆発事故を招く恐れがあり、  
大変危険です。法律で禁止されています。



### 「東京消防庁救急相談センター」

救急相談・医療機関案内

救急車を呼んだ方がいいか迷ったら

#7119 (携帯電話、プッシュ回線から)  
(24時間対応・年中無休)

その他の電話からは

電話/03-3212-2323(23区)

電話/042-521-2323(多摩地区)

救急車を本当に必要とする人のためにご協力を

お問い合わせ/麻布消防署

電話/03-3470-0119



## 「六本木の今と昔」の パネル展示いたします。

六本木商店会振興組合のご協力により、「六  
本木の今と昔」のパネルを麻布地区総合支所エ  
ントランスにおいて展示いたします。

なつかしい風景にであえます。是非、麻布地  
区総合支所にお越しの際はご覧ください。

とき/平成20年6月16日(月)～  
平成20年7月11日(金)まで

ところ/麻布地区総合支所1階  
エントランス

## 麻布地区 小学児童 釣り大会

港区麻布地区総合支所では、小学校の夏休み  
期間中に港区の小学4年生以上を対象とした『麻  
布地区小学児童釣り大会』を開催します。

麻布地区に昔からある緑豊かな自然いっばい  
の釣堀で、魚を釣ってみませんか?

実施時期/小学校の夏休みの期間中

実施場所/釣堀「衆楽園」  
港区南麻布3-9-6

対象/港区内の小学4年生～6年生

対象数/25人(要保護者等の付き添い)

※日程等詳しい内容につきましては、今後港区  
のホームページ等でお知らせします。

## 清掃リサイクル課からの お知らせ

## ごみの分別、 収集曜日が変わります!

## 麻布警察署からの お知らせ

警視庁では、犯罪の被害にあわれ  
た方やご家族の方の、いろいろな  
悩みや相談に応じるため電話相談  
を行っています。

### 被害にあったら

- 捜査や裁判はどのように進み、犯人はどのよう  
な手続きで処罰されるのか
- 捜査上、被害者やご家族にどのようなお願い  
をすることになるのか
- 利用できる制度や、関係機関・団体はどのよう  
なものがあるのか  
などについて犯罪被害者ホットラインをご利用  
ください。

### 犯罪被害者ホットライン

もう一度あなたの笑顔を見たいから  
～相談してみませんか～

電話/03-3597-7830

午前8:30～午後5:15

(土・日・祝日を除く)

FAX/03-3592-6840



今年10月から、港区全域でごみの分別、  
収集曜日が変更になります。

パンフレットの配布申し込み、町会・マンショ  
ン単位などの個別の説明会「だすと出前説  
明会」の申し込みなど、詳しくは下記まで  
お問い合わせください。

お問い合わせ/清掃リサイクル課事業計画係  
電話/03-3450-8273

## AZABU

●配布設置場所ご案内  
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番の  
各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、  
麻布図書館、麻布福祉会館、西麻布福祉会館、  
飯倉福祉会館、本村福祉会館、大平台みなと  
荘、麻布地区センター、麻布地区総合支所等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの  
無断転載を禁じます。

Chief 尾崎恭彦  
Sub Chief 伊東みゆき  
Staff 石山恒子 加藤智恵 橋本明子  
伊藤志織 金子成一 湊 早苗  
石橋千恵子 鈴木敏江 森 明  
大村公美子 高橋 光 山下良蔵  
岡野真由美 西野さつき  
Junior Staff 石山 茜  
大村 響

港区は、みどりの保全と  
ごみの減量に努めています。

### 編集後記

今回の「ザ・AZABU」いかがでしたか?麻布に移り住んで  
間もない私ですが、都会的な印象だけではなく、歴史・文  
化・自然・懐かしさ…さまざまな姿を発見でき、毎日わくわ  
くしながら生活しています。そんな麻布の魅力が紙面を通じ  
て皆さんにも感じてもらえたら幸いです。これからも、麻布  
を知り、愛着を持ち、楽しく暮らすために役立つ情報を発  
信できるよう、編集委員一同取り組んでまいりますので、引  
き続きご愛読よろしくお願いたします!

(鈴木敏江)

### 「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします!

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽にお問い合わせください。  
年中無休/午前7時～午後11時 ※英語での対応もいたします。

電話/03-5472-3710 ファックス/03-5777-8752

Eメール/info@minato.call-center.jp

“Minato Call” information service  
Minato call is a new city information service, available in English every day from 7 a.m. - 11 p.m.  
Visit Minato Call at Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752; E-mail: info@minato.call-center.jp